

平成 27 年度 第 4 回 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録	
日 時	平成 28 年 2 月 21 日 (日) 13:00~15:00
場 所	羽曳野市役所別館 2 階 会議室
出席者	<p>座長：吉川 耕司 (大阪産業大学人間環境学部教授)</p> <p>副座長：黒川 健三</p> <p>第 1 号委員 (教育関係)：鎌谷 裕子、黒川 通典、鶴谷 昌也</p> <p>第 1 号委員 (金融関係)：坂本 浩之、政野 智昭、蓑毛 靖守</p> <p>第 1 号委員 (労働関係)：油谷 孝行</p> <p>第 2 号委員 (市民代表)：中川 哲男、西 聖子</p> <p>第 3 号委員 (市議会議員)：金銅 宏親、上藪 弘治</p> <p>事務局 羽曳野市…白形理事、南口課長、道旗課長補佐 菅原主幹、升本主幹、内本主幹</p> <p>ランドブレイン (LB) …松本</p>
次 第	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 議事</p> <p>○まち・ひと・しごと創生総合戦略 (答申案) について</p> <p>○答申書 (案) について</p> <p>(3) その他</p> <p>(4) 閉会</p>
配布資料	<p>(資料) 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (答申案)</p> <p>(資料) 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について (答申)</p>
<p>■議事概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 議事</p> <p>○まち・ひと・しごと創生総合戦略 (答申案) について</p> <p>《 (資料) 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (答申案) について事務局より説明》</p> <p>座 長：これよりご質問やご提案をいただきたい。特に KPI についてはまだ議論が不十分ということで、重点的にご意見を頂戴できればありがたい。まずは全体を通してみていきたいと思う。</p> <p>上藪委員：8 頁の基本目標の②と③の意味合いが全く同じように見えるが、どのように分けられているのか教えていただきたい。</p> <p>事 務 局：②に関しては民間企業や行政が行う人材育成等も含めて、市内の魅力をきちんと発信できるよう地域のブランド力を向上させるために資源の発掘やそれを整理するという意味で書かせていただいた。また地域経済の発展ということで、お金をどのようにして市の中におとしていけるかなども含めて書かせていただいた。③に関しては、そういった賑わいがで</p>	

た部分に対して、市民の方にきちんと認識していただき、近隣付き合いも含めてコミュニティをきっちりと維持しながら連携を進めていくことにより、賑わいを実感した上で住み続けたいと思ってもらいたい、本市を選んでいただけるようにしていきたいという意味で書かせていただいた。③が「まち・ひと・しごと」でいうまちの活性化の部分につなげており、ハードも含めて実施していくイメージを持っている。②に関しては、産業やひととしごとを主にもってきていると認識している。

事務局：簡単にいうと②はどちらかというと産業振興系で、人材などを育成していこうというお話であり、③は地域コミュニティ系で、地域の活性化で長く住んでいただく定住を目指すということである。基本的には、簡単に言えば経済系と地域系だと考えていただければよいが、地域活性と都市の魅力が重なっているので分かりにくいというご指摘かと思う。

上藪委員：今の説明で分かった。

坂本委員：ずっと「まち・ひと・しごと」ということを言ってきたので、まちに対応する部分が③であり、ひとに対応する部分が①であり、しごとに対応する部分が②だということである。つまり「まち・ひと・しごと」という言葉ではなく①②③で表現されているので、少し分かりにくい部分があると思う。また②と③で地域の活性化や地域資源と同じようなことが書かれているので、分かりにくい。表現の仕方だと思うが、「まち・ひと・しごと」がずっと入ってこないという感じがしないこともない。中身的には全く異論はなく、ただ順番というか表現だけの問題である。

座長：11月の第2回総合戦略推進会議の資料を見ていると、地域ブランド、賑わい、結婚・出産・子育てという順番で書かれていた。議論を経て順番が変わったのか。

事務局：おそらく①の部分が少子化の問題で今一番求められている。おっしゃるとおり、まちをつくろうと思うと、そこに住む人の雇用や住みやすさを目指さなければならないので、まず「ひと」があって「しごと」があって最後にトータル的に目指す「まち」となる。表題と順番は違うが、今求められている順番はこの順番であるというイメージをもっている。

坂本委員：そこは事務局でしっかりとイメージをもち、私のような質問が出たときに分かるようにしておいた方がよいと思う。中身的には問題ないと思う。

座長：例えば緑の枠の上に何か追記することはできないか。「まち・ひと・しごと」の話が全く出てこない。表紙と1章にはあるが、総合戦略のところでは何の関係もなくでてきているイメージがある。「まち・ひと・しごと」に対応して順序を重点施策の順に並び変えたところ、こういった基本目標を設定したという説明があった方がよいかもしれない。そこは全体のバランスをみていただければと思う。やはり戦略なので、国は何を求めているかということ、自分のところの強み弱みをはっきりと出し、それに対する対応を考えるということである。そういった意味では、②の「本市の地域特性を踏まえた」とか、「地域の資源や特性を活かした」というのは文章としてはよいが、実は何も語っていないように思う。そういう視点に立つと確かに①は踏み込んでおり、これを1番目にもってきたというスタンスは伝わる。この順番でよいとは思っている。

次に第4章では、基本目標を実現するための具体的な取組みとして戦略の柱を3つ挙げ、

各柱について具体的な取り組みを書いている。そして、その中で KPI を決める必要があるということで決められているが、いくつかは宿題になっていたり、この場の議論を求められていたりするものもある。

坂本委員：第4章の全体の数値について、先ほどどこかの数値をご説明するときに、累計だと思いうお話があった。中には累計と書いているものもあれば、年と書いてあるものや何も書いていないものもある。そうすると、何も書いてないものについては平成31年度の目標になるのか明確ではない。また、カッコで累計と書かれているものがあったり、なかったりして統一が取れていないので、統一したほうがよいと思った。仮に累計だとして、この数値自体は31年までの5年間という形で設定しているようなイメージをもってしまいが、現実的に27年度から始まっているにしても27年度はこういった討議の時間になっている。これから具体的に活動をおこなっていくにしても、実際には3年や3年半という時間しかないにもかかわらず、単純に5年で想定した数値を目標値に置いて果たして本当に達成できるのか。数値が高すぎるのではなかという懸念がある。また、5で割っているのが配分的に最終年度に数値を多く積むことになるのではないかと捉えられかねないと思う。そのあたりは数値を設定するにあたって、どのように考えておられるのか、お聞かせいただきたい。

事務局：おっしゃるとおり目標値を年次でお示しするのか累計でお示しするのかは明確にするよう修正させていただきたいと考えている。また、現時点で残り4年と少しということを経験したうえで数値目標はあげており、こちらとしては単純に年割りをさせていたというイメージはもっていない。実際に、今後進めていくにあたって少しずつ上がり幅は増えていくということも見越した上で数値設定をしている。11頁の①に関しては、就業者の人数が27年度は20名と記載させていただいている。講座については、定員が40名のところで50%の就業率があったということで数値を挙げさせていただいている。事業数を増やしたりメニューを変えたりして、27年度は25年度と比べると100名増えている。今回、先行型の事業を実施させていただき、非常に新しいことにチャレンジできたと思っている。このようなことを市民のみなさまに実施させていただくことによって、かなりのニーズがあるということも判断できたので、累計であるが150名に設定させていただいた。目標値としては非常に高い目標値を敢えて設定させていただいているところも実際にはある。政策推進課としては、最終的に事業の担当課が目標を持ってやっていくというイメージをもっているため、かなり無理をお願いしなければならないと思っている。これまでは市として目標値に向かって事業に取り組むということがあまりなかったため、はじめは厳しいものだと思っているが、なんとか目標値に近づけるように事業を進めていくということで、まず高い数値を設定させていただいた。もちろん答申案をいただいてから部長会や課長会でもしかすると数値が少し変わる可能性もあるということは想定しているが、はじめから低い目標値を課へ下ろすのではなく、少し高めのを下ろしていきたいという想いで設定させていただいた。

坂本委員：数値目標については、もともと担当課とは何も協議はしていないのか。

事務局：若干の協議をさせていただいた部分はあるが、全ての目標値に対しての協議は現在のところおこなっていない。先ほど申し上げたとおり、答申いただいたものに対して部長会や課長会でお示しする。

坂本委員：かなりハードルが高い数字だと思う。各課へおろしていったときに調整するにしても、できるわけないということになりかねないという心配がある。

事務局：ご心配いただいている部分については、一定の想定はしている。まず課としてきっちり数値を見直すという作業をしていただければ検証の内容に基づいて、再度数値を設定していただければと思っている。まず、たたき台としてこの数値をお示ししたいという想いもあり、現状ではこの形で作らせていただいた次第である。

座長：これは累計の方がやりやすいのか。累計と単年度があるのはなぜなのか。

事務局：累計の方が確かに書きやすいということはある。31年度の目標値で単年になると、数値を実績としてあげるにあたって2年目3年目4年目にどのような数値をもってくるのかきちんと検討しないといけないと考えている。

座長：年毎に達成できない可能性があるリスクを吸収するためか。

事務局：その通りである。

坂本委員：例えば5年で100件の目標としても、毎年20件ずつには普通はならない。最終的に100件に到達するとした方が、最初は少なくとも少し目標を高くすれば後々に達成できるので、5年間で100件を達成したいという目標の方がはっきりすると思う。ただ私が言いたかったのは、そのことについて書いてなかったもので、書いた方がよいということである。

座長：目標に対してはPDCAサイクルでチェックして目標が達成されたかどうか評価しなければならないが、もし達成されていない場合はどうなるのか。

事務局：大きく2つになると思う。目標値は先ほどおっしゃっていただいた通り、目標が高すぎるのではないかという議論も年に1回ないし2回は必要になると思う。そしておそらく、それに向かって行政がどのくらいの資金を出せるか、また民間にどのくらい協力していただけるのかという議論になってくると考えている。極端に言うと市の単費で行う事業に関しては、目標値を下げることによってコストは下がると思う。しかし、まち・ひと・しごと総合戦略に関しては民間や学生の方の力も非常に大事なものであると考えており、きちんとお話をしながら連携して事業を進めていきたいと考えている。きっかけづくりの戦略としては目標値を何とか実現するためにはどうすればよいかという議論をしていくという方が大事になってくると思う。

座長：民間だと達成できなければボーナスが減ったりする。達成できなくてもよいとなれば、はじめから目標数値を設定する必要がないので、別に給料を減らすとかではなくても、なんらかの対策が必要ではないか。

事務局：基本的に行政はこれまで目標値のない事業が多いが、この総合戦略以前から目標値を設定するという流れにはなっている。行政のしごととはやはり民間のしごととは若干内容が違うので、そのあたりは非常に難しいが、評価できるものはやはり評価すべきだというのが現在の行政の認識である。やはり毎年その目標に向かって頑張っていく姿勢は必要に

なってきたと私自身は感じている。

黒川委員：これだけの目標値を決めて進んでいくのは大変だと思うし、色々とよく取り組まれていると思う。行政計画のパターンでいくとだいたい半分のところで中間評価というものがある。総合戦略でも29年度に中間評価をおこない、それぞれの目標値と現状値の乖離の分析をし、乖離が大きい部分については重点的に取り組むなど軌道修正する作業が行われるものではないかと感じた。この総合戦略の中では中間評価については書かれていないので、取り組みや考え方について教えていただきたい。

もう一点、20頁の文章のところ、便益（アウトカム）に係る数値目標を設定すると書かれているが、実際にかかっている数値目標はプロセスの評価が多く、アウトカムが少ないと感じたが、いかがか。

事務局：戦略の柱を3本挙げている中で、戦略の柱1で一番大事な数値として大きな数値目標である、「合計特殊出生率」に関しては、年毎にきっちり集計させていただき、アンケート等も含めて目標に達しているかどうかを数値で表していきたいと考えている。それぞれの個別の重点項目についても、毎年検証を行うと考えている。次年度が28年度になるが、準備段階でこの目標値を達成するために、このような協議会並びに団体と調整していることに対しても、目標値を達成するためにどのような作業を行っているか中身を検証していく。このような検証を年1回ないし2回行いたいと思っており、29年度に中間報告をするのではなく、細かい項目に対するKPIに関しては1年毎に確認していきたいと思っている。国からも、年1回はKPIを検証するようになってきている。大変な作業であるが、総合戦略の一番後ろにも、推進会議に参画していただいているメンバーも含めて、KPIに関して検証すると書かせていただいている。全ての方にお集まりいただいて検証することは、こちらとしてはまだ考えていないが、現座長である吉川座長に関しては必ず入っていただかなければならないと思っている。確かに、アウトプットとアウトカムに関しては表現が非常に難しいが、行政としては従来からアウトプットについてはほとんどの事業に対して行っていた。極端にいうと、危険なところに信号機を設置するのがアウトプットであり、実際にあった事故の件数がどのくらい下がったかということがアウトカムという表現になっている。KPIに関しても、極力アウトプットではなくアウトカムのための事業を行うことで、どのくらいの増減があるかを数値としてお示しさせていただいていると認識している。この事業を行うという表現ではなく、この目標値を達成するために様々な事業を行って達成していきたいという方向で書かせていただいているとご認識いただきたい。

事務局：今回5年の計画をつくるが、このような内容は5年で終わるものではないと思っている。5年計画なので中間年で中間評価をしてはどうかというお話であるが、基本的には最終年度の5年目に次の計画に向かってこの計画を評価することになると考えている。ご説明させていただいたとおり、中間評価ではなく毎年、市の内部での評価と、このような外部委員会をつくらせていただき、外部のみならずからも評価をしていただく。毎年評価をしながら事業を見直していきたいと考えているので、よろしくお願ひ申し上げます。

座長：本総合戦略の改訂自体は5年後に行うとしても、20頁の「重要業績評価指標（KPI）を設

定し、検証・改善を図る仕組みとして PDCA サイクルを運用します。」のところに、その点についても書いておいてもよいと思う。その方がやる気が見えると思う。ちなみに、アウトカムのところには便宜と書いてあるが、便益の間違いである。意識や認識をしてもらうことこそが大事である。先ほど、目標値が抜けているところはご議論いただきたいとおっしゃっていたが、18 頁の「④学生の市内居住の促進」の KPI については、例えば大学の方に学生の割合を出してもらおうのか。

事務局：現状値を設定させていただくにあたって必要な情報を大学からいただきたいと考えている。

座長：抜けているところについては、我々のアイデア出しまでは必要ではないということか。

事務局：KPI の項目に対して、必要かどうかのご意見を頂戴したい。空白の部分に関しても、その項目がよいか悪いかというご判断をいただきたいと思っている。

中川委員：18 頁の「③災害に強い、安全・安心な生活環境の整備」の木造住宅耐震診断の問題であるが、去年から今年から地域の方に全部落としこんでいるので、数値はいくつか挙がっているはずである。データは必ず出ている。

事務局：本日すぐに答えは出ないかもしれないが、数値目標としている項目が本当にこれでよいのか、もしくはもっと違うお考えがあればお伺いしたい。また、先ほども目標値が高すぎるというご意見があったが、そのあたりについてもご意見をいただければありがたい。

座長：失礼な言い方であるが、このような目標値設定に慣れていないのであれば、懸念されるのは、できもしないような目標を無理して宣言してしまい、5 年後にやはり達成できなかったが仕方がない、となってしまうことである。具体的に数字をいくつにすればよいかは、我々はアイデアが出せない。それに関連して言えば、刑法犯認知件数などアウトカムで外部要因の影響が大きく行政の努力だけではどうしてもなさそうな部分については、数値の設定はこれで大丈夫か。本心としては、アウトプット指標からアウトカム指標になった途端に投げやりになってしまうといけないと思っている。相手がいることなので、頑張りようがないとなってしまうことが怖い。刑法犯件数は防犯具をつけるなどで啓発すれば減ると思うが、1,455 件が 1,000 件になるというのは、むしろ社会情勢の方が影響しそうだと感じる。ここまですぐと少し行き過ぎのような気がする。

黒川委員：目標値そのものの妥当性については感想でしか意見が言えないので、難しい。14 頁のとことで市内従業者数が減の目標になっているが、このあたりは説明を十分にしなければ誤解を招くと思う。事前にいただいていた資料でも、平成 22 年に大阪市へ流出する人口が非常に多かったというデータがあったが、その分析が必要である。例えば 14 頁に、このままいけば就業者数が 30,000 人をきるが 32,000 人を目標にするといった説明があってもよいと思った。

座長：確におっしゃるとおりである。口頭ではご説明を聞いたが、説明を書いてもよいと思う。

油谷委員：目標値について、根拠が分からない。例えば、個々の事業の目標をクリアすれば、一つ目の柱である合計特殊出生率の 1.32 とどう結びつくのかが分からない。若者や女性の就業人数について 20 名はクリアできると思う。また、先ほどアウトプットとアウトカムのお話があったが、そうすると 15 頁の相談件数のあたりは全てアウトカム指数に変わってくるとい

うことか。相談件数を目標数値にするのはあまり身がないように感じた。また、ハローワークが協力させていただく部分が非常に多いと思うので、できれば具体的に文言の中にハローワークの名前を入れていただくことで、より協力しやすくなると思っている。

座長：そういうところこそ戦略ではないかと思う。順番に見直していただければよいと思うが、市民にもたらされる便益が重要である。相談件数についても、難しいと思うがもう一步踏み込まなければならぬと思う。相談した結果、市民に具体的な何らかの便益がもたらされたということが重要である。この総合戦略より詳しい説明書はないのか。色々と書いておいた方がよいことはあったとしても、全体としてあまり字が多くても良くないと思う。目標設定の根拠についても、内部文章でもよいのでバックデータをきちんと持つておく必要がある。

坂本委員：言葉の使い方でお聞きしたいが、14頁にある「地域資源を活用した観光の振興」と15頁にある「③ 地域資源の発掘・活用による地域産業の再生」について、ここに書かれている地域資源とはどういった定義か。地域資源法で地域資源とはこういうものだと法律で決まっている。私は仕事柄それがどうしても頭の中にあるが、そういった意味ではなく、もう少し大まかなものをここでは指しているということか。地域資源の発掘となると、今羽曳野市でいくつ地域資源として発掘されているかは分からないが、それをまたさらに発掘していくというイメージで捉えられかねない。国の地域資源法との絡みからも、表現が若干曖昧である。このままの表現でいくのか、それとも他にいい表現がないかご検討をいただきたい。

座長：ぜひお願いしたい。地域資源の間に「の」を入れるだけでは良くないかもしれない。

黒川委員：15頁に地域資源の発掘とあり、その主な取組み例として企業誘致の促進などが書かれている。企業誘致を促進するのはよいが、そればかりではなく企業が出て行くのを制止するといったことも考えているか。羽曳野市では今のところは商工会でもそういったことは聞いていないが、隣の藤井寺市では企業が出ていっており、転入が少なくなってきた。そういったことから考えると、羽曳野市も企業の誘致を考えながら、流出も防がなければならない。出ていく企業があれば行政ですぐ分かると思うので、制止することもひとつの方法ではないか。企業を誘致するよりも、出ていくことを制止する方が難しいと思う。ただ誘致だけを考えていたのではいけない。

もうひとつ、18頁に道の駅「しらとりの郷」のことが書かれているが、先ほど取り組みの中でレジの通過についてお話があった。このレジの通過というのは、あすかてくるで買われた人が、タケル館でも買い物された場合、2回レジを通らなければならないのか。

事務局：公表としては商工物産の方のレジの通過料は市として使わせていただいている。あすかてくるの方を合わせて使っているということではないので、その考え方もどうするか検討していかなければならないと思っている。

黒川委員：タケル館は商工会がレジ通過をしているが、そこにはタケダハムが入っており、タケダハムは別のレジにしている。この分もレジ通過にあげているか。

事務局：現状はタケダハム様の方も、産業の方でレジ通過の数値をいただいている。

黒川委員：それならよいが、タケル館だけの数字では全く変わってくると思い聞いた。また実際には来場者数はレジ通過だけでは出てこないと思う。観光でもそうだが、色んなものを見に来られても気に入るものがなければ買わずに帰る。しかしその人も来場者になると思う。来場者数のところでは、人数をどのように測るのが気になった。

座 長：主な取り組みの例の「道の駅や峰塚公園、駒ヶ谷駅西側公園等の活用の促進」のところに書き加えるなどしてはどうか。この戦略は結局、人口減少下で今までのようにならないようにするためのものであり、それに対して羽曳野市のスタンスを表明しておいた方がよいかもしれない。転入・転出もそうだが市の一番基本となる人口のボリュームが減っていく中で、この KPI の目標値設定に対しても弁解にならない書き方ができないか。まちがしぼんでいく弊害を食い止めるために、少しでも減少率を下げるという話や、転出を減らし転入を増やすという話、また企業に関しても誘致数を増やし撤退をできるだけ抑制するというを一括して書いてはどうか。どこに書くのがよいのかは分からないが、例えば 10 頁に補注のような感じで書くのもよいかもしれない。項目や目標値の設定方針に姿を借りて、今後の人口が減少していく上でこのように考えている、ということの説明しておいてもよいかもしれない。あまり仰々しく書かなくてもよいので、KPI の設定の注釈のところに書くなどしてはどうか。

たくさんの宿題が出た。総合戦略答申案に関しては修正されたものをみなさまに返していただきたいが、もし時間的な余裕がなければ、申し訳ないが私に一任していただければ、責任を持って最終確認させていただきたいと思う。いくつか宿題はあるが、それを含めて羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（答申案）については推進会議のご了承を得たということにさせていただく。お礼を申し上げる。

○答申書（案）について

《（資料）羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について（答申）》

座 長：こちらについては何度か事務局とやり取りをさせていただいた。具体的には「記」の下に書いている 4 項目について、推進会議としてこれでよいかどうかご判断いただきたい。また、他に意見しておいた方がよいと思われることがあれば、ぜひアイデアをお願いしたい。

事務局：もし文言等で不備があれば修正させていただく。また先ほど座長におっしゃっていただいたとおり、不足の部分があれば項目を追加させていただきたい。

座 長：4 つめの項目で、「組み入れられているところではあるが、今回組み入れが困難であった意見や提案に対しては、様々な課題もあると考えられるが、」と 2 回続いているので、この部分については文言の修正をお願いしたい。

他の修正もあるかもしれないが、今の文言の修正も含めてこちらについても申し訳ないが私にご一任いただきたい。この羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の答申のかがみについても、この推進会議でご了承を得たということにさせていただく。

(3) その他

事務局：この会議終了後、本日いただいた宿題や文言の訂正を加えたうえ、座長に確認していただいた後、市長へ総合戦略の案について答申をいただく。その詳細についてお話させていただく。答申書の手交式を3月頃に予定しており、こちらについては座長と副座長の2名で臨んでいただくので、もうしばらくよろしくお願ひ申し上げます。

4回に渡ってご審議いただいた戦略会議も本日で最終となる。市長公室白形よりお礼を申し上げます。

白形理事：市長公室理事の白形です。改めて、ごあいさつをさせていただく。この度、羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にたくさんの方にご参加いただき、たくさんのご意見をいただけたというのが率直な感想である。私どもは審議会などで色んな意見交換をさせていただいているが、やはり市民の方や色んな団体の方とお話をさせていただく中で、色々な視点からご意見をいただくことが非常に大事だと思っている。今回、第4回の推進会議が終わり、毎回2時間を越えるようなご審議をいただきありがたく思っている。先ほども申し上げたとおり、今回で終わるということではなく、このままこの推進会議が残るのか、また改めて新たな組織ができるのか具体的には決まっていないが、いずれにしてもこのまち・ひと・しごと総合戦略について外部の方から色々のご意見をいただかなければならないと思っているので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(4) 閉会

事務局：以上をもち、第4回羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を閉会する。